



いっしょに
おはなす

日本の昔話
イラスト しておざわ ともみ

むかしむかし、びんぼうなじいさまとばあさまが
なかよくくらししていた。ある年の大みそかのこと、
じいさまはためいきをついていた。

じいさま「はああ。あしたはお正月だというのに、
おもちをつく米もない。なんぞ、売るもんでも
あればええがのう。」

ばあさまが土間^{どま}をみると、夏の間にかりとってあつた
すげが、つんであつた。



ばあさま「じいさま、じいさま、このすげでかさを

ごさえて、町さ売りに行けば、おもちが買えんかのう。」

じいさま「それはいい考えじゃ。そうしよつそうしよつ。」

ばあさま「よつこいしよ

の いらしよ♪ ほら

ひとつできた」

じいさま「よつこいしよ

の いらしよ♪ そら

ひとつできた」

ばあさま「よつこいしよ

の いらしよ♪」

じいさま「よつこいしよ

の いらしよ♪」

ばあさま「ひとつ、ふた

つ、みつ、しよつ…」

じいさま「いつつのかさ

ができたのう。」



じいさま「おもち買って帰るで。にんじん、ごぼうも

しよつてくへるで。」

(ざわざわ 市場の活気)

明日はお正月とあって町はたくさんの人でにぎわっていた。

じいさま「かさは
いらんかな。かさ、
かさは いらんか
な。おらの家のば
あさまと一生けん
めい作ったかさ
じゃ。

かさく、かさは
いらんかな？

(はあ)
年こしの日、かさ
なんか買うもんは
おらのじゃろ。

……はあ。

かさく、かさは
いらんかな？
かさく。」



じいさま「おもちももたんで帰れば、ばあさまはさぞや
がっかりするじやろう。」

(「オオオ」)

じいさまがとぼとぼ歩いていると、風が出てきてひどい
ふぶきになった。

じいさま「なんとまあ、もうすごし早うに雪になって
くれたら、かさのひとつも売れたろうに。はて、あれは…、
だれだべ。」



地ぞう1「さむ！」

地ぞう2「頭のあたりがみょうにつめたい。」

地ぞう3「わたしカチカチでございます。」

地ぞう4「そりゃ、まあ石だから。」

地ぞう3「いや、いや、さむいからでしょ！カチカチに

ごおりついているんです。」

地ぞう5「あゝ、さむっ。さむく。」

(びっくびっく。雪を歩く

じいさまの足音)

地ぞう6「ん？」

じいさま「ほおく、お地

ぞうさまじゃ。これはお

気のどくに。さぞさむか

ろう。つめたかろう。そ

うじゃ。このかさをつこ

うてくだされ。」



じいさまは、売りもののかさをおじぎょうさまにかぶせると、風でとばないよう、しっかりとむすんだ。

じいさま「ごっちのおじぎょうさまは、はなからつららを下げてくださいらっしゃる。はあ、足も頭もさむかろう。」

じいさまのもってきたかさは五つ。しかしお地ぎょうさまはぜんぶで六人。

じいさま「はて。こまった。そうじゃ、そうじゃ。(てぬぐいはずして)なに少しばかりぼろぼろですが、さむさはしのげるで、こらえてください。はいこれでええ、これでええ。」



じいさまは、はればれとした気分になって家にもどった。

ばあさま「さぞ、つめ
たかつたろうの。かさ
はうれたかや？」

じいさま「それがさつ
ぱり売れんのでのう。な
んにも買えずに帰って
きたよ。でもな、雪を
かぶつてさむそうな
お地ぞうさまに道で
会つてな、ばあさまと
作つたかさは、ぜんぶ
かぶせてきた。」

ばあさま「ほーーー
ー、それはええことを
しなさつた。さあさ、
じいさま、あたたまっ
てくださいね。」

ばあさまは少しもおこらないで、ふたりは早々とねむって
しまった。



じいさま「(はっ)ばあさま、きみのような音がきこえるの
う。この年ごしのばんにだれかおもたいにもつをひいて
るものがあるようだ。」

ばあさま「んだなあ。だんだん近づいてくるようだなあ。」

(どいどいじゃ、どいどいじゃ、 かさくれたじいさま♪どいどいじゃ、
どいどいじゃ、じいさまのうちじゃ♪)

(どん、どん、どん!!)

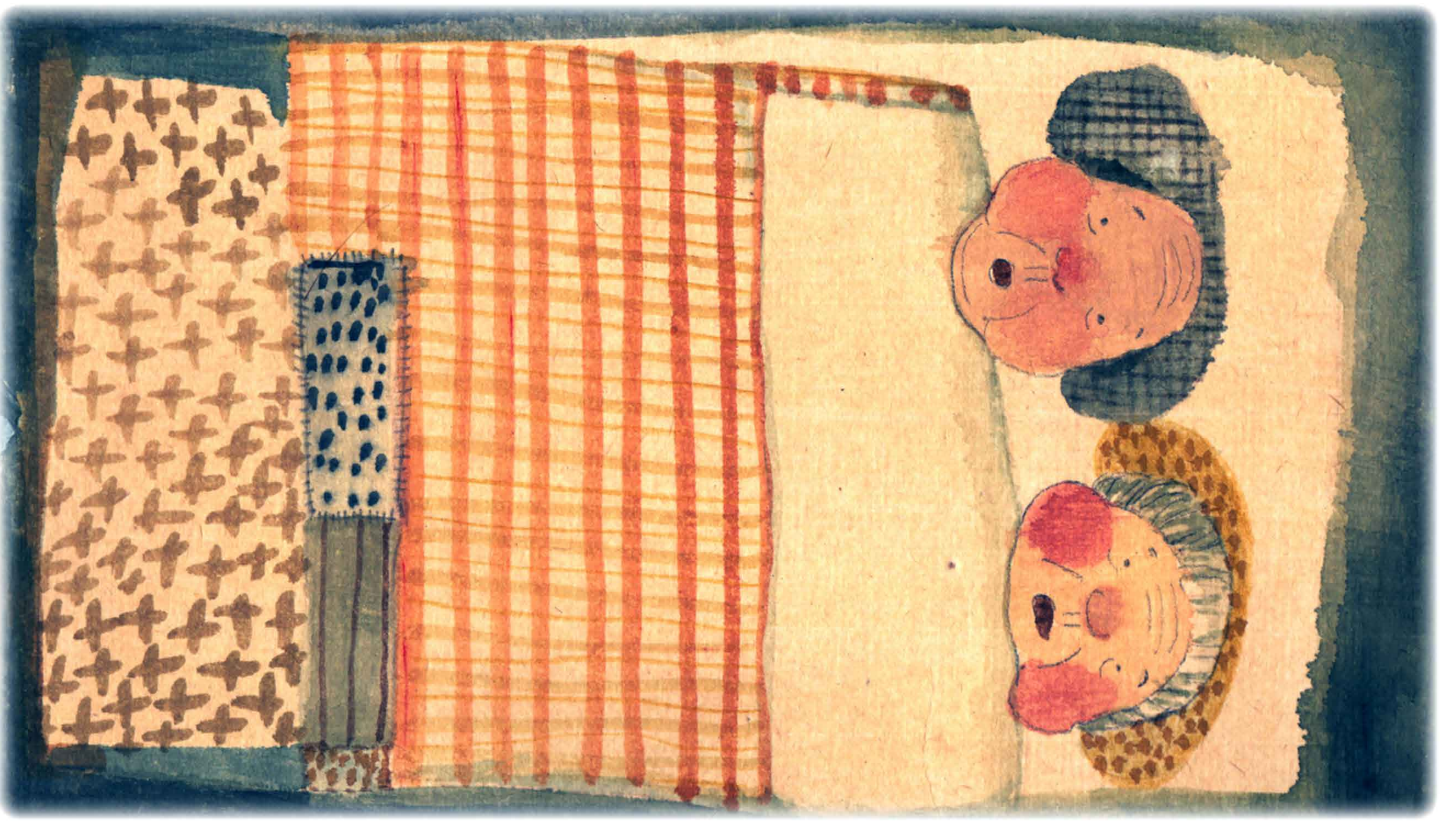
とびらをたたく音)

(どっしーん、どーん!

がらがらがらがら!

いろんなものが

おかれる音)



じいさま「ひゃあ。ばあさま、ありやなんだ？」

そこには、たくさんのごちそうや光りかがやく金かがおいてあった。

じいさま「だれか親切なお方がおいていつてくれたにちが
いなかろう。」

ばあさま「まあああ、ありがたやありがたや！」



じいさま「ばあさま、あれをみい。ほら、お地ぞうさま
じゃ。」

みれば、月明かりの中、六人のお地ぞうさまが、だんだん
遠く小さくなっていくところだった。

地ぞうさま「どい
じゃ、どいじゃ、
よっいしょの
こらしょ♪ありが
たや、ったら、あり
がたや♪」



(ゴーンゴーン)

じいさま「ばあさま、新しい年がやってきたのう。」

ばあさま「お地ぞうさまのおかげでめでたいお正月になりますのう。」

心やさしいじいさまとばあさまは、それからも二人でなかよくくらししましたとさ。



おしまいら